

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

| | |
|-------|-------|
| 都道府県名 | 岐 阜 県 |
|-------|-------|

学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | | | | | |
|-----|--------------|----|----|----|----|-----------|------|-------|-----|
| 学校名 | 加茂郡坂祝町立坂祝小学校 | | | | | フロンティアチャー | | 酒井 昭明 | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | 14 | 21 |
| 児童数 | 75 | 76 | 66 | 80 | 82 | 80 | 3 | 462 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--|
| どの子にもわかる喜び、できる楽しさが実感できる授業をめざして - 基礎的・基本的な内容を確かに身につける算数科指導 - |
|--|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

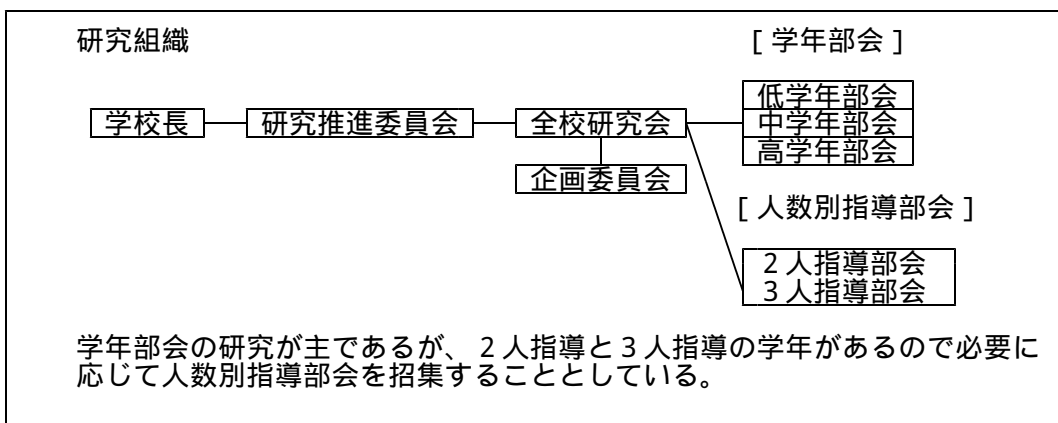
| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・特殊学級を除く全学年・算数 <p>本校では、昨年度まで基本教科である国語科の指導研究に取り組んできた。その成果を土台としてもう一つの基本教科である算数科において基礎基本の定着という視点で指導体制の見直し、指導方法の工夫改善を行いたいと考えた。すでに本校は少人数指導、TT指導で個に応じた指導を算数科で行ってきた。これらの学習は、子どもたち、保護者からも肯定的に受け入れられている。</p> <p>以上の理由から個人差が顕在化する算数に焦点をあてて研究を進めることとした。</p> |
|--|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ どの子にもわかる喜び、できる楽しさが実感できる授業をめざして</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元と単位時間でつきたい力を明らかにし、規準にもとづいた適切な評価を指導に生かせば基礎的・基本的な内容を確かに定着できる。 ・子どもにかかわる複数の教師の役割を明確にし個に応じた指導をきめ細かにしていけば基礎的・基本的な内容を確かに身につけることができる。 ・ねらいをふまえた適切な算数的活動を位置づけ課題解決していく場を意図的計画的につくっていけば、数理的に処理する力が豊かになり、わかる喜び、できる楽しさが実感できる。 <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 評価規準を明確にした指導計画の作成 前年度の学習到達度の確認と特につけるべき内容の確認 身につけるべき基本的な力と評価規準の明確化 2 学習内容を無理なく確実に身につけさせる複数教師による指導の工夫 TT指導・少人数指導体制の工夫・改善 学ぶ楽しさを味わわせる学習過程の工夫 3 自己の学習を振り返り更に伸びようとする意欲を高める評価の工夫 ・改善 学習ごとの自己評価、単元ごとの自己・相互評価の工夫 評価を生かした指導の改善 |
|--------|--|

| | |
|----------------|--|
| 平成 16 年度 | <p>テーマ 前年度を継承 どの子にもわかる喜び、できる楽しさが実感できる授業をめざして - 学習内容を確かに身につける算数科指導 -</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導計画を元に単元、単位時間のつきたい力を明確にし指導法や指導過程の工夫を積み重ね、評価改善を続けていけば児童に基礎的・基本的な内容を定着させることができる。 ・学級単位の複数教師による指導を改善し、児童による問題解決学習の支援を続けていけば数理的に表現する力が豊かになる。 ・ねらいと評価の一体化をめざして評価の方法を工夫し、さらに指導と指導を児童の評価で結ぶことで指導計画の改善を図ることができる。 <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 評価規準を明確にした指導計画の改善 本時のねらいに迫るための学習過程・評価規準の見直し 評価規準達成のための具体的な支援例の再構築 2 学習内容を無理なく確実に身につけさせる複数教師による指導の工夫・改善 T T指導・少人数指導体制の工夫・改善 学ぶ楽しさ、わかる喜びを味わわせる学習過程の工夫 3 自己の学習を振り返り、更に伸びようとする意欲を高める評価の工夫・改善 学習ごと、単元ごと、学期末の自己評価・相互評価の工夫 児童の評価、教師の評価を生かした指導の改善 |
|----------------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

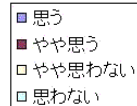
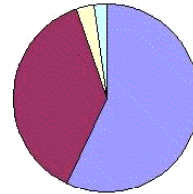
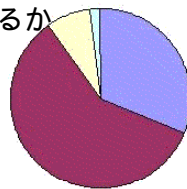
| |
|---|
| <p>研究内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導の実態把握 前年度の指導を振り返り、学力テスト・児童アンケートの実施により研究の出発点としての児童の実態が明らかになってきた。 ・年間指導計画の作成 他校の実践も参考にしながら、教科書教材、学習過程をもとに1単位時間1評価規準の決定と単元の評価規準のバランスを考えた研究の出発点となる指導計画を作り上げることができた。 |
|---|

研究内容 2

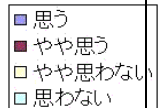
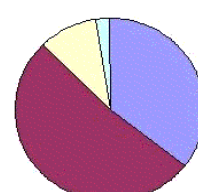
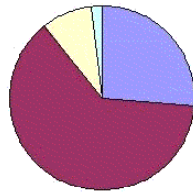
- ・算数の基本的指導過程の確認
評価規準を持ち、「問題 課題 交流 まとめ」の指導過程を押さえながら適用題、自己評価に取り組む学習の流れを共通理解して授業実践に取り組むことができた。
- ・複数教師による指導の役割の明確化
学級単位の複数教師指導体制においてそれぞれの教師の役割を明確にして指導することで、より一人一人に応じたきめ細かな指導が可能であることがわかった。
また授業実践後の教師間の連絡により同学年の学級の授業に生かすことができた。
- ・柔軟に指導体制を組む実践を通して
確かな学力をつけるための手段として単元にとらわれずTT指導・少人数指導をねらいや学習内容、活動に応じて柔軟に採り入れ、更に学習環境や教材、算数的活動の工夫を考えた指導を通して児童がより意欲的に学習に専念できることが分かった。

7月と12月実施の保護者アンケートの比較をした一部が次のグラフである。

* やる気は向上しているか



* 力がついてきたか



実践の結果次のような場合、習熟度を配慮した少人数指導が有効だと考えている。

- * 学力差が大きい学級集団で内容理解が難しいと考えられる単元を扱う場合
- * 算数的活動を多く採り入れるなどで学習スペースを確保したい場合
- * 学習のまとめや単元のふりかえりをおこなう場合

研究内容 3

- ・意欲を喚起する毎時間ごとの自己評価の実践
学年ごとに児童の実態にあったと考えられる自己評価を実践させ、教師が認めるを行うことにより子ども達の授業に向かう姿勢がよくなってきた。
- ・子どもの実態を探り次の指導に生かすヒントとなる単元ごとの自己評価
同じ学年でも、集団が違えば学習スタイルや指導の方法も変わってくることで少人数指導を導入し、子どもの意識を探ることで明確になってきた。この意識の違いに配慮しながら次単元の指導の工夫を考えることができた。

2. 今後の課題

研究内容 1

- ・指導計画の改善
今後研究、授業実践を積み重ねる中で指導計画を常に改善するという方向で評価規準、授業実践後の評価の記録を累積し見直しを図っていきたい。

研究内容 2

- ・指導体制の見直し
本校の少人数担当の教師は異学年にまたがっているため、学級単位の複数教師指導体制は教師の受け持ち時間を増やすこととなり実践研究等の負担が大きい。また低学年も実践を通して少人数指導導入の重要性が分かってきた。限られた職員数で効果的な指導をあげる指導体制について次年度の状況を考慮しながら計画を立てていきたい。
- ・複数教師による指導の工夫・改善
役割を明確にしたTT指導・少人数指導を更に進め、児童がわかった・できたといえる効果的な指導法を実践していく。

研究内容 3

- ・発達段階をふまえた自己評価の実践
6年間を見通した自己評価の内容の吟味とともに、相互評価なども考えながら、関心意欲以外にも効果を上げることができる評価のあり方を探っていくこと。
- ・複数教師でできる形成的評価の工夫
スモールステップの評価を積み上げながら、効率的にしかも確実に子どもの姿を把握することができる教師側の評価のあり方を探っていくことが重要である。
単元の評価が指導計画の改善の視点となる。現在は保護者向けに行っている学期末の評価の生かし方についても考えていきたい。

その他

- ・小中の連携について
町内1小1中という条件の中、協力して算数・数学の教科において「9カ年を見通したつきたい力」の把握と指導のあり方について実態を把握し、指導方法を交流して、互いの共通理解のもと実践していくこと。

学力等把握のための学校としての取組

- * 学力調査テストの実施 5月・2月(予定)
- * 単位時間毎の自己評価の累積
- * 少人数指導実施単元後の児童アンケート実施とその分析
- * 学期末の保護者アンケートの実施とその分析

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会、説明会等の実績及び開催予定
 - ・平成15年11月26日御嵩町立御嵩小学校において実践発表
可児・加茂管内小中学校対象
文部科学省・岐阜県教育委員会指定学力フロンティア事業
 - ・平成16年2月25日 本校において公表会並びに実践発表(予定)
可児・加茂管内小中学校対象
文部科学省・岐阜県教育委員会指定学力フロンティア事業
- * 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績及び今後の予定
 - ・坂祝小ホームページにおいて年間指導計画公開及び公表会内容公開(予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 1 5年度からの新規校 1 4年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
13～18学級 19～24学級
25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
生活 音楽 図画工作 家庭
体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無